

会 告

去る五月二十五日に開催されました史学研究会理事・評議会において、次の案件が可決、承認されました。

一、昭和六十三年度決算報告及び平成元年度予算案

一、役員交替

(1) 理事長長谷川道雄、理事浮田典良、黒田俊雄、林巳奈夫、監事木村賢二郎、評議員井関弘太郎、木下良、橋崎彰一、平田嘉三、横山浩一氏の退任。

(2) 理事長に河内良弘、理事に佐々木克、古屋哲夫、矢守一彦(評議員より)、監事に上横手雅敬(理事より)、評議員に石原潤、市原寿文、中島義一、西谷正、新田一郎、服部昌之、藤井讓治、森時彦、山田誠氏を選任。

(3) 常務理事に紀平英作、服部春彦氏を選任。なお旧常務理事大山喬平氏は理事に復帰。

昭和六二年度科学研究費補助金(研究成果公開促進費)の受領について

昭和六二年度の史林の刊行費の一部として、文部省学術国際局から昭和六二年度科学研究費補助金(研究成果公開促進費)の交付を受けております。

編集後記

七十二巻四号をお届けします。今回も質、量とも充実し、読みごたえのある内容を提供できたと自負しておりますが、なかでも、フランス革命勃発二百周年を迎えるこの七月に、その革命の評価をめぐる上垣氏の論説を得たことは、単なる偶然ではありません。まされぬものが感じられるのではないのでしょうか。

また、私事ながら、昨秋、京都を訪れたティンネフェルト氏の講演原稿を掲載できたことも、当日、つたない質問で講演者、通訳の両氏を困惑された当方としては感慨

深いものがあります。世に学際的研究とか、学問の国際化という掛け声はあふれておりますが、日本でヨーロッパ学を学ぶことの難しさや意味あいを考えさせられた数日を思い出します。

閑話休題。これから暑い日が続きますが、こうしたときこそ史林の力作を一気に読破し、その後に飲むビールの味が格別なのです、などと言っているのは夏休み中、何の子定もない僕くらいでしょうか。

(Rootz)

一九八九年六月二十五日印刷
一九八九年七月一日発行

定価一〇〇〇円
送料五二円

史 林 第七二巻第四号(通巻第三五六号)

発行人 京都市左京区吉田本町
京都大学文学部内

学 研 究 会

理事長 河内良弘
振替京都七五一五五番

印刷所

京都市下京区七条御所ノ内中町五〇
中村印刷株式会社